

# 山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻(十)

久保田 啓 一

## 凡 例

- 一 漢字は、常用漢字に含まれるものはそれを用い、他は正字体とした。ただし、「卿」「并」「祇」のように、組版の都合を考慮して俗字を使用した場合がある。また、明らかな誤字は訂正した。
- 一 平仮名・片仮名については、書き分けに意味があると考えられるため、底本の表記に従うのを原則とした。平仮名の文脈中にあらわれる「ニ」「ハ」「ミ」もそのままとした。なお、合字の「フヤノ」などは、それぞれ「コト」「シテ」などに開いた。
- 一 適宜句読点・濁点・半濁点・中黒を補った。
- 一 漢文の訓点は、明らかな誤りを正した以外は底本のままとし、新たに補うことはしなかった。
- 一 踊り字は、ゝを「々」とした他は底本通りとした。
- 一 校訂者による注記は、〈表紙〉のように「〜」で示し、底本に使用される「〜」とは区別した。
- 一 欄外や行間の補記、割注の類は、〈欄外〉(○○○○)・〈傍注〉(○○○)・〈割注〉(○○○○)のように「」で括り、底本に使用される「〜」とは区別した。
- 一 底本の行移りには従わず、内容に応じて適宜改行した。また、改頁を示すことはしなかった。
- 一 闕字・台頭・平出の類は無視した。
- 一 日付・天候の記述から本文に移る形式は冊によって異なり、統一がとられていないが、日付・天候を一字下げで書き始め、本文を続

ける形式に統一した。

- 一 通読と検索の便を考え、各冊の最初と最後には〈第〇冊 表紙〉(以上 第〇冊)と校訂者注記を掲げ、各月の初めには〈文政九年〉のように該当年を注記した。

- 一 全冊の本文掲載終了後、索引を付す予定である。

〈承前〉

六日〈嘉永五年五月〉。大雨。宮川又三郎武元。柳川伝習館ト云。マタ甲斐原源吾・佐藤十左エ門・池辺藤左エ門三人来訪。甲斐原ハハヤクカヘレリ。

伏原三位卿ハ古風ヲ好ミ玉フ豪傑也。後ニハ北野ノ辺ニ小屋ヲムスビテ居玉ヘリ。

懸コヒのたえず入来るわが宿ハ貧しけれども賑ハひにけり  
コノ卿背面美人ノ賛に、歌ハワスレタリ、端書ニ、国をかたぶくる人もあるべし、城をかたぶくる人もあるべし、われハ城をも国をもたざれば、たゞかうべをのみかたぶけて。

先年ノ飢饉ニ、カシノ実ノ困ヒ物ヲ以テ國中ヲスクヒ玉ヒシトゾ。コレハ米沢ノハナシ也。越前モト儒官ノミ書ヲヨミテ他ニワタラズ。故ニ学館モナシ。コタビ吉田定助〈小書〉〔足軽〕・半井休庵・浅井弥折〈小書〉〔御小性〕、コノ三人志ヲ起シ、闇齋ノ大学講学ヲ買テ、始テ大学ノ身心ニ功アルヲ知り、コレヨリ三人大ニ学ニ力ヲツクス。終ニ定助ガコト上聞ニ達シ、追々用ラレ、家老ナドモ門ニ臨ムニ至ル。コレ越前開国已来始テ也トゾ。一昨年、遊学ニハジメテ三人出タリト

ゾ。

○長崎ノ皓台寺ノ黄泉上人ノ歌トテ西原ノイヘル、

ミそらまでわがおほきみの国ぞとハふじの高ねを見てぞしらるゝ  
○聖最寺トテ柳川ナル禅宗ナリ。住持自寛ト云モノ、久留米領山本  
村ノ庄兵衛ト云者ノ狐ヲツカフニ同意シテ種々ノ妖術ヲ行ヒケルヲ、  
西原ニ吟味被仰付。コレニ依テマヅ自寛ニ問フニ怪ヲ以テ、寛云、怪  
ニアラズ、神ナリ。ソノ神ナル所以ヲ問フニ、三木ノ地、モト御末家  
立花出雲守ノ領ナリシヲ、御所替ニテ奥州ノ下手土ト云所ニウツサレ  
玉ヘリ。コレガ御本地ニカヘリ玉フベキ御願ヲ神口ニ立玉ヒタルニ、  
今ニ至テソノ期至リカヘリ玉フベキ証ハ、肥前唐津ノ公事ニテ御下向  
ノ官使、当国三木ヲ御宿トシ玉フ。コノ手ツゞキヨリ御国ノ功トナリ  
テ、御本地カヘリニナルコト必定ニテ、ツヒニカクナリ玉ヘリ。コレ  
モ則神ノ告ニテ知タリ。コレ狐式ノ知ルトコロニアラズ。コレヲ庄兵  
衛ニ神明ノ告玉ヘル、奇ニアラズヤ。西原云、コレ狐ノ所為ナリ。モ  
シ実ニシカナラバ、他領ノ小民ニ神ノ託シ玉ハズトモ、コノ方ノ殿カ  
家老カニ託シ玉フベシ。カツ其方施餓鬼ヲ修シテ食物ヲ餓鬼ニアタフ  
ル。ソノ坐ヲ唯俄トイフ。ソノ時餓鬼アラハニ形ヲ頭ハシ、物ヲ申ス  
カ。寛云、物ヲバ申サズ。タゞ冥ニ与ヘ冥ニ受ルノミ也。然レバ神モ  
サヤウニ庄兵衛式ニツキテ、アラハニ声聞ユルヤウニ云ベキニアラ  
ズ。ミナ狐ノマヨハス所ナリ。汝イカニ。寛云、マコトニ然リ。然レ  
ドモ某所ニ土中ヲ堀レバ金イヅルコトヲ、神ノ庄兵衛ニツゲ玉ヘリ。  
コレハ、推古ノ御代ニ藤原良忠ト云人ノ国司タリシ時ニ埋モレタルモ  
ノニテ、コレマコトニ実事ニテ、イマ堀カケテ居ル也。西原云、ソレ  
則狐ノ物シラヌヨリ云出タルコト也。神イカデサヤウニ文盲ナラン。  
良忠ノ名、古ヘメカズ。マタ藤原ノ姓ハ持統ノ世ニハジマリテ、推古  
ノ世ニナキコト也。汝マヅ今日ハカヘリテ、コノ歌ヲ心ニオモヒテ、  
坐禪シテ明日来ルベシ。

なき名ぞと人ハいひてありぬべし心のとハ、いかにこたへん  
明日来リテ一ノ箱ヲ出ス。ソノ中ニ観音ノ像アリ。西原云、観音ノ像

ニテ狐ナルコト明白也。観音ハモト化ルモノ也。或ハ十一面トナリ、  
或ハ馬頭トナル。コレソノ証也。マタソノ下ヲ見ルニ、ハタシテ狐ノ  
毛少々アリ。依テテスグニ命ゼラレテ自寛ハ国退トナリ、マタ久留米ノ  
庄兵衛モ柳川ニテ捕レテ獄ニ死セリトゾ。

柳川三柱宮ハ、梅岡宮・松蔭宮・瑞玉宮ノ三柱也。梅岡ハ戸次丹後  
守貫通公（割書）〔入道道雪公〕、松蔭ハ（割書）〔立花宗重公〕、瑞玉  
ハ宗重公ノ夫人光照院殿也。瑞玉光姫命也。サテ末社ニ戦死ノ靈社  
アリ。武八十臣靈神ト云。御城御内仏、江戸御内仏及福巖寺ノ御位牌  
所ニ戦死位牌トテ、戦死ノ人ハ簷差・又者・中間ニ至ルマデ洩サズソ  
ノ名ヲ記シタル位牌アリテ、七月十五日ト大晦日ニ御拜アルナリ。

○柳川ニ小田又七郎藤村、水哉ト号ス。釣ヲ好テ下手也。西原ハ上  
手也。西原短竿ノ好キヲ持ツ。水哉長竿ノ好ヲモツ。互ニカヘムトス  
レドモ、ミナソノ用ニ適スルユエニカヘ得ズ。サラバイヅレニテモサ  
キニ死タル者、記念トシテオクルベシト云アハセタリシニ、水哉サキ  
ニ死タリシカバ、竿ヲ西原ノ許ニオクレリ。西原オモヘラク、コレ生  
前ノ約ナリト雖、タゞ取ベキニアラズトテ、位牌ヲテツカラツクリテ、  
ウラニ歌カキテオクレリ。

釣せんと立出てミレバうらさびしなぎさもさびし君にわかれて  
コノ水哉、常ニ白繻伴ヲ着テ釣ニ出ツ。背ニ小田又七郎藤村死骸也ト  
書ツケタリトゾ。

○仏庵ハ御疊師ノ頭ナリトゾ。流求来聘ノトキ、金作ノ太刀ヲ帶テ  
コレヲ客館ニワスレ置、流求人ニ取セントス。コノコト上ニ聞エテサ  
シ止メラレタリ。ソノ取ラセントスルユエハ、彼等コレヲ取ナバ、日  
本ニテハ疊（傍記）〔疊也〕師サヘカク金作ノ太刀ヲ帶タリト云コト  
ヲ知ラセテ日本ヲカガヤカサント思ヒシニ、ロヲシキコト也トイヘリ  
トゾ。コノ太刀無益ニナリシヲ、後ニ日光石ニカヘタリトゾ。日光石  
ハカノ地ノ湖底ヨリ出タリ。彼人モトコノ石アルヲ聞テ日光ニテ尋レ  
ドモ知レズ。或云、ソハ先年湖底ニ沈ミタリト。因テ人ヲアツメテ数  
日搜リテツヒニ得タリ。然ルニ日光ノ人、コレハコノ地ノモノナレバ

ツカハサジト云タルヲ、徒ラニ湖中ニ埋レタルヲ取出テオノレ取カヘ  
ルニ何事カアラント大ニ怒リタルニ、辟易シテ土人ドモ何事ヲモイハ  
ザリキ。サレドモ其料ニトテ彼金作りハ日光ニ納メタリトゾ。○マタ、  
自然石ノ名硯ヲ持タルヲ阿波侯聞ツタヘテ、一斉ヲ以御所望アリシ  
ニ、阿波半国玉ハラバ遣スベシトイヒシニ因テ事ヤブレニケリ。一斉  
ソノ時、アマリノ事也、程々ノ事ヲ申セトイヘリシカバ、然ニアラズ、  
コノ硯ハ近江ノ湖鹿飛ヨリ出タルヲ己レ始テ得テ、人間ニワタリテ  
タゞ己レコレヲ持タルノミ、然レバイマダ持フルシタルコトナキ名物  
也、阿波ハ大国ナラネド、昔ヨリ幾人カ持フルシテケガレタル国ナリ、  
一国ノコラズトイヘドモ、コノ天下一ノ硯ニ当ルベカラズ、マシテ半  
国ヲヤ、阿侯何ノヲシミ玉フコトアルベキトイヘリトゾ。コレヨリ阿  
波のなかバト云名ツキタレド、後ニ或人、なると銘ヲツケカヘタリ。  
コハ、なるとハ阿波侯モ心ニマカセ玉ハヌモノナレバナリトゾ。

○異人ナリ。諸国ノ神社仏閣ニ参詣人ノ名札ヲハルコトハ、  
コノ人始メナリトゾ。賽銭ハ、四文銭一文ニ糸ヲツケオキテ神仏ノ前  
ニ投ジ、拜スルマヘニナゲテ、拜シヲハリテスルノト引トリテカヘ  
ルトゾ。或神仏ニ奉レルモノヲマタ取カヘスハイカント云ケレバ、神  
仏ハ金錢ヲ上タリトテ取タマフモノニアラズ、タゞ賽スルシルシナ  
リ、実ハ社人ヤ法師ガ取ルナリ、サレバコレハオノレガ上ヲオノレガ  
取ルナリトイヘリトゾ。

○増上寺ノ念仏ハ、毎日夕方歩行シテ申ス也。僧コレヲ  
嫌ヒテ常念仏ニカヘテモラヒ、見台ニ万葉・古今等ヲオキテコレヲヨ  
ミツ、鉦ヲナラシタリトゾ。院主ノ云、カレハ念仏ハ宿縁ナク

テ歌ニ宿縁ノアルモノ也、サテユルシオクベシ、中ニハ女ヤ魚ヤニ宿  
因アル僧モアルヲ、カレハソレニクラブレバ大ニヨシトイハレシトゾ。

西原晁樹ガヨミテ出セルウタ

をちかたの友にとハれしうれしきハむかしの人もかくやありけん

かへし

むかしにもたぐひやハあるかくばかり道の心のあへるためしハ

池末が父ノ八十賀ノウタ

としごとのわか水にして千とせ川千とせのはるも君やくまゝし  
七日。雨ハレタリ。

タガタ久留米ヨリ船曳大式磐主タツネ来レリ。モロトモニ三柱宮ニ  
マウツ。イトウルハシキ御社ナリ。今日モ西原翁ソノ外アマタ来タリ。

八日。晴。今日省耕園ニ会シテオノレヲ饒ス。西原翁、佐藤十左エ  
門、甲斐原源吾、安武弥十郎、河村半九郎、詩人中野彦一南疆ナリ。  
マタ京ノ詩人劉石秋トイフ詩人モ来タリ。コレハ日田ノ産ナルガ、長  
崎ニ下ルツイデ也。盃飯シバ々々メグリテイタク酔ヘリ。

またも来てのこるくまをバかたらはん木がくれおほきやどの月か  
げ

千とせ川名さへたのもしとも舟のまたこぎあはん末をおもへバ

九日。晴。朝トク柳川池末彦三郎亭ヲ出タツ。三柱宮ノ前ヲ過テ瀬  
高駅ニ至ル。一里半也。宮ノマヘマデ宮川又三郎ト池末庄二郎兩人オ

クリニ来ル。瀬高ニテ人足ヲ継テ出タツ。御池マデ四里ナリ。瀬高ハ  
コノワタリニテハヨキ駅ナリ。コヽヨリ宿町、府中ト出テ上方ヘユク  
ワカレ道アリ。寺ヲ来迎寺トイフ。浄土也。社ヲ新宮祇園宮トイフ。  
御茶屋モアリ。

三里バカリ来テ、渡瀬ト云所ノ東ニ馬牧アリ。三池ニテヒルゲタウ  
ブ。湯村惣兵衛ノ亭ニテナリ。コノ近キ所、宮部村ニ劍術家ノ大石晋  
八居ルト也。ミけのさをばしノ古道、コノ南ノ町ハヅレノ右ノ方也ト  
イヒツタフトナリ。

さみだれもかぎりしくれて島原のたかくのたけも雲がくれにけり

一ノ埵ト云所ヨリ西ニアタリテ雲仙岳ミユ。海モミエテナガメヨシ。  
御池ヨリ二里アマリ来テ肥後・筑後ノ境アリ。境ニ熊本ヨリ九里トイ  
フ標アリ。コヽヨリ半道バカリ来テ、ふもとノ駅也。柳川ヨリコヽマ  
デ七里半ナルベシ。但コレハ瀬高通ナリ。本道通ナレバ柳川マデ六里  
也。ふもとニテトフニ、夏作不宜ニ付、米価一升百十六文ト也。

畠バカリ多キ台ヲ二里半ホド過テ、高瀬中町ノ豊屋武右エ門トイフ

逆旅ニヤドル。広しまノ画工原田荷涯トイフニアフ。コノ高瀬ヨキ所也。コノ畳ヤマタヨキ逆旅也。(割書)ハね木ト云所ニ八幡宮アリ。ヨキ社ナリ。二王門ホリモノ美麗、本社門共ニコケラ葺也。ソノマヘニ弥陀一丈バカリノ立像ノ銅像アリ

十日。クモレリ。朝トク出テ高瀬川ヲワタル。舟ワタシ也。

アシタロト云所ニ天満宮アリ。ヨキ社也。コケラ葺樓門アリ。コノワタリ田地多シ。田原ノ台ニテイコフ。コノニテキク、熊本、八代ノ宇土、九十(傍記)〔カ〕、小国、南関ノ五所ニテ富アリ。乙ハ八貫目、ソノ次三貫目、次第アリ。マタ木葉町ニテワラウヅヲ買フ。廿四文位ヨリ十四五文マデアリ。至テ高シ。コノ辺、米一升百四十文、塩五十六文。

高瀬ヨリ三里余来テ植木宿也。コノニテヒルゲタウブ。コノヨリ城下ヘ三里ナレドモイト近シ。左右切岸ニテ風通サズ暑シ。一里半バカリヨリコノナタハツマ足下リナリ。カナコギトイフ小村ヲスギテヤ、来テ天守ミユ。イトイチジルシ。城下モヤ、近シトオボシキ路旁ニサラシ者アリ。女ナリ。罪科ノ次第書附アリ。ミレバ岳村ノ某女、呉絹ノ帯ヲ打、肌着ノ襟ト袖口トニ日野ヲ用タルニヨリテナリ。城下ノサマ、音ニ聞シヨリハ田舎メキタリ。御城ノ石垣スベテイト高ク、天守雲ニソビエタリ。細工町大野伝右エ門ガ亭ヲタツネテ上田ヨリノ添書ヲ出シタルニ、アルジハコノ三月ノ比身マカレリトテ後家ナリ。業ハ船間ヤトオボシクテ、秋穂ノ船頭ナドモトマリタリ。普通ノ宿ヤニハアラズ。

申時バカリニ、佐藤十左エ門ヨリ書オクリタル柳川ノ土笠間左中来テイフ、横井平四郎ハコノホド葦北ノカタニマカリテ留守ナリ、コゾノ漫遊ノヲリトモナヘリシ葦北ノ死セルニヨリテナリトゾ。木下卯太郎ハ母ノ喪ニコモリタルホドナリシカバ、萩覚兵衛ヲ訪フ。久シクカタラヒテ亥ノ時バカリニカヘリツ。

十一日。クモレリ。  
浄土宗二十四ヶ寺、真宗五十一寺、城下ニアリ。

清正公ニマウヅ。柳川ノ笠間左中、及南関ノ内藤泰吉トイフ書生誘引ス。道ニ藤崎八幡宮トテアルニマウヅ。ヨキ社ナリ。連歌堂ニ諸士社人ツドヒテ連歌最中也。公ノ御道中御平安ノ祈禱連歌ナリトゾ。ユキノテ道ニ長岡トイフ御門ノ邸アリ。コレハ

ソノサキ清正公ナリ。日蓮宗ニテ本寺ヲ本妙寺トイフ。詣ツレバ右側ナリ。仏殿、本堂、方丈等イトウルハシ。ソノ他塔頭二十ヶ寺バカリナリ。茶店モ四五軒アリ。香花甚盛也。帰路御城ヲ見物ス。壺井川ノ流レヲワタリテ御城ノ禁ニイヅ。天守三重、マヘト左右ニ同ジ位ノ三重ノ櫓アリ。以上四ツナリ。

天そゝり高きやぐらの下をのミ里のけぶりも立めぐりつゝ

南御門ノカタ塀ヤ、ヒク、テ壺井川メグリ流レ、橋カ、レリ。御花畠南御門ノ南東ニアリ。ソノ御花畠ノ屏下ヲ南御門ノ方ヘ旅人ノ往来ナラズ。屏下ノ川中ニ馬立五六十バカリミユ。ソノ御花畠ノ北ノ方、御馬屋ナリ。ソレヨリヤ、行テ、板ノミニテメグリヲシタル米蔵アリ。困モノナリトゾ。イタク大ナルコトニアラズ。横井平四郎ノ兄ハ左平太トテ郡代ナリ。十四郡代アリトゾ。ソノ下手長ナリ。一郡ニ四ツ五ツホドアテアリトゾ。下代、算用方、普請方ナドヤウノモノハナキヤウスナリ。平四郎ハ隠者ニテ、タゞ学業ノミニカ、リテ居ルヨシナリ。一郡十二万石ガカシラニテ、ソノ外九万石バカリノ所ニ所アリトゾ。午時バカリヨリ萩角兵衛ガ許ニマカル。湯池十右エ門、津田山三郎、永島三平、高田勝馬、池内九八郎、久野勘太郎、マタ横井ガ門人内藤恭吉、笠間左仲、亭主ト九人ナリ。学館ノコトヲ訪フニ、サノミ振フ気色モアラズ。居寮生廿五人、日々出稽古ノ者四百人ナリトゾ。教授一人、助教或ハ一人、或ハ二人也。ソノ次訓導五人、蒙養師二人、句読師十人。習書、素読打合せ三四百人。

クレテ後、大野ニカヘル。永島三平ノ来レルニ、執中抄二、令校本二、征韓ニヲカス。  
十二日。雨。  
秋穂ノ舟頭祇園丸ノ二太郎来テイフ、川尻・高瀬・八代三所ノ御蔵

ヨリ大坂運送ノ米二十万石、凡千四百石ツミノ船百三十艘ホドニテ運送トシ、ソノ外穀物至テ多シ、佃ニダニカマハネバ、麦・粟・キビ・故摩（傍記）〔胡麻也〕、其外イカホドモ買ル、一向ツカヘナシ。

コノ比、宇土ノサキニ千町バカリノ新開出来ト也。

万石以上ハ、長岡佐渡三万石、八代城持長岡監物一万五千石、有吉頼母一万八千石コレ也。ソノ他御一門ト称スル内ニ、長岡与八郎（傍記）〔伊豆〕六千石、長岡刑部五千石位、コノ兩人ヨリ以下、ソノ他ミナ小身也。長岡・有吉トイヘドモ土地取ニハアラズ。タゞ馬飼料ノ地一二百石宛アリテ、コレニ百姓ヲ持テ居ル也。ソノ余ハミナ切米ニテ一石カニ斗ナリトゾ。

巳ノ時過ル比ヨリ、小山市太郎・永島三平ニ誘ハレテ林藤次ガモトニマカル。藤次ハ広足等ト共ニ長瀬門人ナリトゾ。至テ質朴ナル体ノヲノコニテ、年五十五六ナルベシ。令ノ遊部ノコトニ考アルヨシヲイフ。家ニ四壁ナク、天井ナク、至テアラマシキカヤブキナリ。コヽヲ出テ水前寺ノ御園ヲ見ニマカル。道ニ津田山三郎待迎ヘタリ。山三郎・三平兩人ガアナイニテ御園ニマカリヌ。御園中ノ御亭ハカヤブキニテ、イトウルハシキ御構ヘニハアラヌモノカラ、四畳半出床ノ御席川ニツクリカケタリ。川幅二十五六間モアルベシ。至テ水清クシテ浅シ。所ニヨリ涌出スル水ナルユエニ一点ノ塵芥モナシ。近キホドニ公御帰城ナリトテ掃除モヨクシタリ。カヘサニソコナル旗亭ニテ、永島・津田ガアルジニテ酒肴ヲ出セリ。庭前ノ土ナメラカナルニ倒レテ、刀ノ鞘ヲウチワリス。日ノ入ルホドニカヘリス。

肥後ノ法ミナ軍役ニテ建タルモノニテ、六備トシテ三備ハ家老三人受、三備ヲ備頭トシテ三人ソノ次也。ソノ次ニ大頭兩人也。阿蘇大宮司ハコノ大頭格也。但束帯出仕ノ時コノ御取扱也。平日ハタゞ格式ナク役ニツケタル御取扱也。却説ソノ六備ノ下ニ、一備ニ番頭二人宛アリ。大組ヲ六ツニ分ケテソノ番頭ナリ。着坐以上鎌ヲモツ。長岡佐渡ノ家ハ本姓松井也。今モ本人バカリ長岡ニテ、残りハ松井ヲ称ス。

堀平太左エ門ノ跡ヲ堀丹左エ門ト云フ。三千五百石ナリ。御用人ヲ

ツトム。御側ノ頭也。

水前寺の成趣園にて

夏なれどほととぎすとも蛩ともおもハでむかふ庭のおもかな  
ながれゆく川のミづおと涼しきにくるゝ日をせく岩かげもがな

大城の矢倉を見て

賑へるさとのけぶりにつゝまれてたかきやぐらぞいとゞ空なる

清正朝臣の靈社にまうでゝ

淀川にあらぬこゝちのつゝミこそさミだれし世も崩れざりけれ

また

あまがけりいかにうくらんいるも音もむなしき法の花のたむけを

林藤次ガモトニテ高本敬藏順ガウタヲキク。

天照す光りハキハもなきものを空にしめ（傍記）〔カ〕ゆふへだ

てをなせそ

すゞか川同じ流もかハる瀬を八十瀬しら波わけてしらなん

コレハ長瀬ガ伊勢ニ物学びニ付トキノハナムケノウタ也。

十三日。晴。

志方半二郎松門 上田忠左エ門一徳 矢野肇清方

コノ上田忠左エ門ハアサテ出立テ鶴崎ニ来ルトイフニヨリテ、小書

画帖一冊ヲアツラヘオク。

萩角庵（傍記）〔兵衛カ〕ノタノミ、吉田物語、洞春公御詠草、村

田ノ高千穂ノ詩、来てミレバノ歌、威徳談林ヲ写遣スコト。

坂田吉右エ門宗佐、コレヘ幽齋公ノ歌道ヲ伝フ。竹原某ヘ礼ノ道ヲ

伝ヘ玉フ。

今日小山市太郎亭ニテ一会催ス。出席ノ人々ノ歌ドモ別ニ記セリ。

夜フケテカヘル。

十四日。晴。

朝人タイトマ申ニ来ル。巳ノ時バカリニ出立、小山市太郎ト久野勘太郎、城外マデ送りニ来ル。御菩提所泰照寺トイフニマウツ。イト事モナキ寺也。ソレヨリ杉ノ下道ヲ来テ三宮ノ前ニテイコヒ、大津ノ新

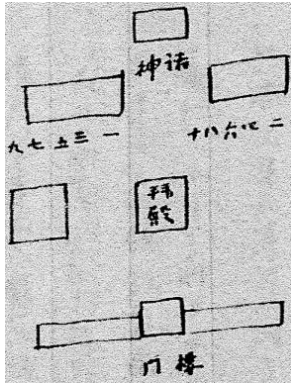
町トイフヲ過テ、大津駅ノ伊セヤニツク。申ノ時バカリナリ。熊本ヨリコ、マデ五里。ケサイトトク起テ出立ノイソギドモストテ、ハルカニ城ノカタヲミワタシテ、

ほのくゝとしらむ雲間にそりたてる矢ぐらも月のくまもとの里五里ノ間、城下ヲハナレテコナタ、タゞ畑ノミ多クテ良田スクナシ。路旁ニ茶店ナドモヲサタ々ナク、諸士ソノ外ノ往来モイトスクナシ。

十五日。晴。

明ワタル比ニ大津ノ伊セ屋ヲタツ。コレヨリ杉ノ下道ツマサキアガリノ道ヲ一里半バカリ過テ、はぶりが谷トイフ所ニイコフ。大津ヨリコナタスベテ野山ニテ、人家更ニナシ。ヤ、来テ中ノコヤト云所ニイコフ。コ、ヨリ十余町ノボリテ峠アリ。峠ノ禁ヨリ右ニ入ルハ新道ナリ。スコシ遠シ。左ニ入ルハ古道ナリ。少シ近シ。西ヨリ上ルカタハ道ケハシカラズ。東へ下ルカタハ甚嶮岨ナリ。下リハテ、村アリ。坂下トイフ。

内ノ牧ニテ昼餉ヲタウブ。コ、ヨリ宮地へ二里ナリ。コノワタリ阿蘇ノ山下ニテ氣候オクレタルケニヤ、コノ比田ヲウ、ル也。宮地ニツキテマヅ阿蘇宮ニマウヅ。



〔図中の記載〕〔諸神 二四六八十 一三五七九 拜殿 楼門〕

一宮ヨリ十宮マデ左右ニワケテアリ。檜皮ブキ也。大宮司ヲ訪ツルニ、川カリニ出タレバ、カヘリテ後アナキスベシ、ソレマデハマヅ丹波ヤトイフハタゴヤニテイコヒ玉ヘトテ、人ツケテ遣ハシツ。

十六日。晴。宮地ノ丹波屋ニアリ。

かつハわきかつハもえつゝ水と火とあひあらそへりあその山かげ阿蘇大宮司藏(刀)

来国歳 ○ 永仁五年三月一日 三尺三寸五分 (割書)〔タ、良浜ノ合戦、蛸丸ト号スルハ、刃ノコボレタルヒカリノ、蛸ノ如クナリシヨリ云フ〕

熊本ノ法、千石已上ハ一石ガ一斗八升也。八代三万石トモ現米五千四百石ノ外トリ物ナシ。千石以下マタ少シヨシ。四百石已下、一石ニ二斗ノ法也。

熊本、凶年三年ツヅク時ハ民飢ニ及ブト也。

薩摩、二三年前已前より大變也。コレハ御嫡ヲ廢シテ愛妾ノ腹ノ庶子ヲ立ントシ、コレニ依テ貴戚ノ公子ナドモミナ離散、筑前御縁家ユエコレニ立退ントテ到ル人段々アリ。肥後ノ百姓ニ淨留理語リ一人、コノ欠落ノ公子ヲ看テ相棒ヲコシラへ、カゴニノセテ筑前ニ送ラントイフ。他人不折合ナルヲ、淨留理ヲ証ニ引テ、善人ハ一応落魄ストトモ終ニ運ヲ開ケ也、必コノ人ヲ世話スベシトテ、ツヒニ從弟ナルモノト二人カツギテ筑二至レルニ、町ハヅレヨリ一人ノ帯刀ノ男、籠ノ内ヲ望ム。籠ノ内ヨリ某カトイフト、右ノ男ヲチマチ頭ヲ地ニツケタリ。コレ主從トミユ。トクヨリ筑前ニ来リテ主ノコトヲ訴ヘオケル也。籠ノ者ニ金五兩ツカハシ、後二運ヨクハ猶衰スベシトテワカレタリトゾ。マタ士二人、肥後ノ(マ)ヲタノミテ来レルニ、コノ人ウケガハズ。因テナク、ソノ家ヲ立出タルニ、横井平四郎・萩角兵衛ナドソノコトヲ聞、スグニ某家ニ来リ、薩人ノ情、善悪ハシラレド、折角タノミ来レルモノヲ他ニ遣スハワガ肥後ノ恥也トテ、急ニ跡ヲオハセ、ツレ帰リ、上ヘモ申出タルニ、内々御聞濟ナリ。滯留シテ過ル比薩ヘカヘリタリトゾ。

今日終日、大宮司亭ニテ古文書其外ヲ見ル。来国歳ノ太刀妙也。今日夕ガタヨリ雷鳴、雨イミジクフル。

十七日。晴。

宮地ヲ立テ廿丁バカリアリテ坂梨トイフ所也。御茶屋・番所ナドアリテ相応ノ所也。ソレヨリ滝室坂ヲコエ、宮地ヨリ二里余来テ寄塚トイフ。マタヤ、来テ笹倉村也。家十餘軒アレド明家多シ。ソノスコシ東ニ竹田ヘノワカレ道アリ。スグニユケバ鶴崎也。竹田道ニ入テ一里バカリキテ塩谷トイフ。肥豊ノ境也。従是西細川越中守領分、従是東中川修理太夫領分トアリ。コ、ノ茶店ニテ昼餉ヲタウブ〔割書〕〔コノ茶店他国人也。国人不足、イヅコノ者ニテモ居ラル、ト也〕。

菅生ト云所〔割書〕〔コ、ノ大名ヲ柏原ト云。景行記柏野ノ大野也〕ニ茶店アリ、コ、ニ憩テ居ルホド二雨フリ出ヌ。松本ノ茶店ニテユデタル玉子ヲタウブ。肥後ノ人々コ、ニイコヒキタリ。雨イヨ々々烈シケレドシノギテ玉来ニ着。又菅生ヨリ二里半ナリ。スベテ菅生ヨリコナタ、岡ノウヘノ道イトアヤシキ所ナリ。サテ玉来ヨリ岡ヘ半里、コノ間岩ノ中ヲ切通シテ道トナセル所イクツモアリ。雨ニワビツ、田町ナル野口謙之介ガモトニツキヌ。謙之助、書籍ナドヲヨミテ疇人也。

〔割書〕〔今日クル道ニ白原八幡トテ景行行宮ノ跡アリ〕  
十八日。朝ノホド天氣ニテ午後雨ニナレリ。

古田右馬允ノ許ヲトフ。コレハ古田織部ノ子孫ナレド、当主人ハ茶ヲバセヌ也。祖先、茶ニテ中川家ニ御預ケニナリタルバカリノ罪ヲモ犯セレバ、茶ハ家ノ仇ナリトテ也。ハジメハ勘忍料トテ二千石玉ヒシガ、追々ヘリテ今ハ四百石ナリ。一石凡ニ斗四升位ニアタルト也。クレテ後カヘル。主人茶ハセネドモ膳部ハ会席メキタリ。マコトヤ、コノ家ニテ〔頭欄〕〔〇〕飯倉清景、字ヲ竹屋十兵衛トイフ五十七八ノ老人ニアフ。コレハ、文政六年未年、オノレ浪華中ノ島ノ小串真佐人〔真ノ字ノ右に傍記〕〔真〕トイフ医家ニ寓シテ読書セシコロ、六ノ助ト名ノリテコノ家ニ共ニ寓セシ人ニテ、後二季鷹ノ供ニテ江戸ニ下リ、谷文晁ト一所ニ吉原ニ遊ビ、アヒヤドリセシコトナドカタレリ。オノレガ萩ニメシカヘサレシコトナドヲモホノカニ聞テ、カゲナガラ悦ビシ人ニテ、ソレユエニ主人右馬允コノ人ヲ呼ニツカハシ、オノレニアハセタリ。三十年前ノコトニテ懐旧ノ情ニタヘズ、互ニ袖ヲシボ

リヌ。真佐人、オノレガ居ス所ニテ、ヨリノコノ人ナドニ、コノ芳樹ハタゞ者ニアラズ、イヅレ名ヲ揚ベキ者ナリト常ニイヒシ、真佐人モ常人ナラズ、眼アリシ人ナリト云テ、オノレガ今カク世ニ称セラレ、コトヲイタクホメテ、共ニ起フシタリシ昔ヲ主人ニモカタリ出テホメアサム。カタハライタクコト多カリ。宗祇ノ故居トカイフハコノコトナルベシ。即文政六年ノ十二月廿三日、コノ清景小串ノ家ヲ出テ舟ヨリツクシニ下ヲオクリテ、オノレ、

わかるともながらの橋のはし柱かけはなれてハおもハざらなん  
冬ノ海ハ浪たかしとふわがせこハおきへなごぎそ浪たかしとふ  
トイフ歌ヲ玉ヘリトイフ。オノレハサルコトヲバワスレ居タリ。顔ヲミルニ、ゲニ知レル人ナリケリ。サイツトシ、宮市ノ左平ニ託シテオノレニ文ヲモオクレルヨシ也。歌ヨミテツカハス。

ナにハ江にむかしむや〔傍記〕〔つカ〕びし友船のこぎわかれて  
もとしをへしかな

十九日。晴。

〔頭欄〕〔〇〕朝ノホド、三宅某ニ伴レテ九華老人ヲ訪フ。イハユル角田才次郎ナリ。六十七八ニテイト静カナル老人ナリ。近比著述ノ近世叢語ノ正統ノ咄ナドヲキク。コノ人ノイハル、ニハ、松崎慊堂ハ肥後ノ益城郡ノ農民ナリ。ハジメ父ノ大病ヲ見捨テ国ヲ出テ苦学シテ名ヲナセリ。後ニ肥後侯召抱ントシ玉ヒシニ、アル老臣諫メテ、イカニモ学文ハ長ケタルベケレド、カ、ル忠孝ノ道ヲ失シタル人ニ学政ヲ掌ラシメ玉ヒテハ風化ノ御妨ナリトテ折合ズ。コレニ依テソノコトヤミス。但候ソレホドマデニ思スコトユエ、目見ハ被仰付タリトゾ。後ニ□〔ク字形不明ノ字〕人ニカタリテ、肥後侯ノ御目見ハオノレガ首ヲ継タマヒタルナリトイヘリシトゾ。

廿日。晴。

城ノ北ニ三宅山ミユ。ソノ禁、古ノ比倉ノアト也。コノ山即万葉ノ名欲山也。朝ノホド田ノ村如仙ヲ訪フ。佐甲今朝腫物ノ医ニミセテ針ヲス。少々快方ナリトゾ。

肥後ノ藪茂次郎ト柏原甚兵衛ノ母(割書「茂二郎姉」)ノ月三十題ノ歌合ヲ高本慶藏ノ判シタルヲ古田右馬允ヨリミス。三十題ハ一日ヨリ卅日迄也。コノ古田、歌ヲヨミテ香ヲ側ニ翫ブ。風流家也。古田織部ノ婦ノ家ナリ。織部ノ正流ニハアラズ。

古田ニテ<sup>ツガダ</sup>小河弥右エ門ニアフ。經濟家也。(割書「岡ヨリ四里、白水ノ滝ミニマカル。図アリ」)

古田ニテ契沖ノ弟僧ニツカハセル状ヲ見ル。コノ僧熊本ニ住ス。依テ熊本ニハ契沖ノ書多シト也。ソノ外古田織部ノ連歌、マタ春屋和尚ノ弟マタ古織ノ太閤ヨリ拝領シタル唐物ノ茶入等ヲミル。コノ日午時ヨリ立テ乙津ニマカラントスルニ、道十二三里ノ場ナレバ道二一トマリスベシ、菅田ト云所然ルベシト、アルジ謙之助イフ。佐甲ハ腫物ノイタミニ足ハカドルマジトテサキニ立ヌ。未時バカリニオノレモ立ントスルニ、古田暇乞ニ来タリ。何クレトカタラヒテ、菅田ノ大庄ヤ<sup>(一)</sup>ノ許ニトテ書ツク。トカクスルホドニ申時ニナリス。古田ト野口トオクリニ来ル。城ノ側ノ山ヲ越テ城ヲミルニ、マコトニ金湯ノカタメ也。川水フカク兩岐ニナリテ城山ヲメグレリ。城ハ天然ノ石壁ノ上ニツクレリ。橋ヲワタリテ、タゞ岡山ノ上ノミヲ上リ下リシテ、一里バカリ来テ志賀村、景行記ノ志賀物部神社、直入中臣神社アリ。カロウジテ夜亥ノ時バカリニ菅田ニツキヌ。道ニテ雨フリテイミジウクルシメリ。里長ノ許ハ、明日岡侯ノ三々浦ニ着セ玉フ飛脚来タリトテ人馬クリ出シ、イトイソガシケレバ、外ノ家ニヤドヲ設ク。佐甲トクヨリ着テヲリ。

〔頭欄〕〔〇〕廿一日。晴。佐甲ハ腫物ニテ道オソケレバ、オノレトク出テ犬飼ノ舟場マデユキ、鶴サキニ下ル川舟ノ心遣ヒセントテ立テ一二丁行タリケルニ、跡ヨリ大庄ヤ追懸来テヨベバ、シカ々々ノコトニテ宿ヲモエマキラセヌ、イトホイナカリシ、今朝ハワガ家ニマネキマキラセントオモヒシモノヲ、カク出立玉ヘルコソクチヲシケレトイフ。コレニ別レテ犬飼マデ三里ノ道ヲ急ギユキヌ。タゞ山坂ノミ也。犬飼ヨキ所也。コヽモ岡ノ領也。舟ハ岡ノ札一文ナリ。佐甲ヲマテド

モ来ラズ。スベナクヒトリ乗テ下リヌ。午ノ時バカリニ鶴崎ニツキヌ。ヨキ所也。肥後領ナリ。今日ハアヤニクニ熊本侯ノ着船シ玉ヘル日ニテ、昼餉タウベニ立ヨルベキ家モナシ。スベナクテタゞ茶店ニアリシ饅頭ヲアマタ喰ヒテ乙津ニマカリヌ。鶴崎・乙津ノ間、川渡シアリ。(割書「東ノ方ノ川ハ犬飼ヨリ下ル川也。西ノ方、乙津ヘワタル川也」)コノ川尻ニ三々トイフ所アリ。



〔図中の記載〕〔岡領 三々 犬飼川 熊本領 鶴崎 乙津 天領 島原領〕

コノ川ヲワタレバ後藤ガ家ナリ。主人今四郎ハ、岡侯ノ着船ノ御ヨロコビニ三々ニマカリテ留主ナリ。妹ナリケル人、ナニハニテムカシミシコトアリシ女ナリ。出テメヅラシキ対面ノカタミニ事ナキ事ドモヲカタラフ。申スグルホドニ今四郎モカヘリヌ。クレカケテ何クレトカタラヒヌ。

〔頭欄〕〔〇〕廿二日。晴。何クレトカタラフ。肥後ノ士小山川蔭ガ父及ビ長瀬真幸等、菊池ノ墓ヲ筑前ニタヅネテ得見出ズ。カヘリテ不忠ノ小式ノ墓ヲタヅネアタリテ大ニ立腹シ、小便ヲシカケテカヘリシトゾ。後藤碩田ノ話也。コレニテ思ヒ出セリ。釣彦ノ話ニ、蒲生秀実モ崎人ナリシ也。京ニテ栲亭先生ノ家ニヤドル。毎夜他出シテ四ツ過ニカヘル。先生オモハク、果シテ遊所狂ヒナルベシト。因テ大ニ戒ム。秀実曰、然ラバ実ヲ申ベシ、ワレアマリニ尊氏ノ不義ヲ憎クオモフ故ニ、毎夜墓所ニ行テ墓ヲ三百ヅ、管ツ也、然ラザレバ一日ノ鬱氣



散セズト。

肥後阿蘇谷アタリノ寒地、冬霜雪トミルト前夕ニ田畠ニ水ヲカクルナリ。然シテ霜雪ヲ消スト也。岡松辰五トテ鶴崎ノ高田ノ人ニアフ。

論〈傍記〉〔読力〕書家ナリ。

廿三日。晴。暑氣如蒸。

夕カケテ岡松ハカヘレリ。申時バカリ小夕立。

廿四日。晴。後藤ニメヅラシクアヘルニヨリテヨメル歌、

門ミレド 見し家ならず 庭ミレド 見しやどならぬを 入るからに ものなつかしく 居るまゝに ものしたしきハ いかならん よしかもあると たむだきて かむがへもふに 十とせまり三とせのむかし おし照や なにハのかり寐 枕をも ともにさしかへ ふすまをも ひとつにかさね 玉しきの ミヤこのあそび 君ゆけば われしりにつき われゆけば 君さきにたち 妹よりも なつかしくもひ 親よりも したしくむつび おふなぐ ありつるものを はふつたの よそにわかれて あら玉のとしへにけるか しかばかり あひもふ君か いへなれば 始てくれど やどなれば 始めてふめど おのづから あるじのゆかり なつかしく したしくもふも むべならずやハ

反歌

はたご馬もはやくらおろせわが家とおもへる家にけふやどりけり

廿五日。晴。

サイトツ比肥後ニテ聞シ話ヲ思ヒ出テ書ク。義土御預リノ時、茶道小堀正悦ト云者、明日切腹ノコトヲ大石其外へ知ラセマホシクテモ云コトヲ止ラレタルユエニ、禁ヲ犯シテハイハレズ。コレニ依テ床ノ花ニ梅ヲイケタルヲコトハク四ヒラニシテ生タリ。サスガノ大石、切腹ノ朝コレヲミテタチマチ悟リ、正悦ニ向ヒテ、不言ノ御教示御芳志辱シト云シトゾ。マタ安田貞方ニキク。サツマノ士新納某、三齋公ニ対面ノ時ノ連歌ニ、

ぼうひげをちんちろりんとひねりあげ

三齋公、

花のもとにてまつむしのなく

コノ二条ハ肥後滞留中ノコトナルヲ思ヒ出テコ、ニ記ス也。

徒然ノマ、二国朝画徴録ヲヨムニ、憚寿平ハ写生家ノ祖也。王石谷ガ山水ニ富ルヲミテ謂石谷曰、是道讓兄独歩矣、格妄恥為天下第二手、於是舍山水而学花卉為写生正派トアリ。格ハ寿平ノ名也。

真守ガ妻ノ親家、日向延岡ノ小田某ノ妻、コノホド別府ノ湯ニマカリタリシガ、カヘサニ立ヨルヨシニテ、今日ソノ船ニ三浦ニヨセタリ。真守ガ妻モ湯見舞ニマカリテ同伴ナリ。婦人ノコトナレバ、同ジ所ニコミ居ンコト憚ナキニアラネバ、川ノヘニ小楼ノアナルニウツレトイフ。ヤガテ小楼ニマカリタリケルニ、楼近ク川浪ウチヨセ、三歳の浦ノ家居トマレ小船ナド近クミエ、鶴サキモ東方ニナ、メニミエテ、イトナガメヨシ。三歳の浦松ノ葉ゴシニ遠山青クミユルハ杵築ノカタメナリトゾ。渡シ舟モ楼下ニ行カヒシテサビシクモナシ。无腸上田翁ノ歌ヲ床ニカケタリ。

豊国のミちのしりなりおとつ川むべおとたてゝながるとぞいふ

こなからをとめバいくせぞおとつ川おとせのながれ世々にかはらじ竹田ノ咄トテ碩田ノイヘル。島津家久ノ流求征伐ノ時、新納武蔵守忠元、八十余ニテ船バタマデオクリ、家久ノ袖ヲトラヘテ、

あちきなやもろこしまでもおくれじとおもひし事ハむかし也けり

トヨメリ。カバカリノ勇将、カク歌ヲモヨミ、マタ口〈字形不明の字に傍記〉〔迎力〕歌ヲモスルユエンハ、ソノハジメワカ、リシ時愛妾アリ。ソノ聞ニ行タルニ、何カ物カキテ居タルヲ、ミセヨトイヘドモ否ミテミセス。シヒテ乞ケレバモミ丸メテ吞テシマヘリ。忠元イカリテ、定テ密通ノ状ナルベシ、イハレザル奴也トテ手討ニシタリ。サテ腹ヲサグリテソノ文ヲヒロゲミレバ、

人ならバいかにかよふ軒の梅が香

トイフ古歌ニテナムアリケル。新納大キニ後悔シテ、強キのミガ武士ニハアラズトテ、コレヨリ歌ヨミニナレリトゾ。

夏目

身ひとつのおき所だになかりけりたのむかげにも夕日こもりて

廿六日。晴。

延岡ノマロウドハヨベノ夜汐ニ漕出テイニシカバ、オノレラモモトノ方ニカヘリテフシヌ。ケサハアスタ、ントテノイソギドモヲス。

廿七日。晴。

岡藩ノ長谷川喜一郎四山トイフ書家来ル。碩田云、佐伯毛利侯藏書、海内ニ類少シ、二万卷バカリ公義ヘモ上ゲ玉ヒシト也。マタ云、オノレ昔尾道ニテ交リシ文山トイフモノ、今ハ金比羅ノ金山寺町ト云所ニ居ルト也。合柴（柴字に傍記）（ハ）桃谷トイフトゾ。

後藤ニ肥後ノコトヲキク。御囲ヒハ一粒モナシ。一昨年ノ飢饉ニ、庄屋ソノ外豪農ノ穀類ヲ漸ク御借上ニテカツク、濟タリ。今一年飢饉ツバクト大変ト也。

七ツ時乙津ヲ立ツ。真守別府マデ送ラントテ来ル。十町バカリ来テ、千歳ト云村アリ。延岡領ナリ。コ、ニ佐藤竜之進ト云医アリ。名ヲ貞吉トイフ。易家也。河図ヲトリテ洛書ヲ取ラヌヨシ也。コ、ヲ出テ一里余来テ川アリ。大分川ト云。水源九重山ヨリ出ツ。九重ハ万葉ニ朽網山トアリ。舟ワタシ也。ワタリテ十丁バカリキテ、蒋山万寿寺ニマウツ。山門ナドアリテヨキ寺ナリ。大友氏ノ菩提所ナリ。蒋山ノ額外門ニカ、レリ。趙子昂ノ筆ナリ。府内城ニテ安藤芳庵ト云医家ニイコヒ、コ、ヨリ舟ニテ別府ニワタル。子時バカリニ着ヌ。（頭欄）（コ、ノ浦ニ仏郎機ノ大砲ヲワタス。武備志）吉松ヤ惣七トイフヲタ、キ起シテヤドリヌ。後藤ガ定宿ナレバナリ。湯イトヨシ。中津ヤトイフ家ノ内ニ構ヘタル湯モヨシ。船ニテ来ル海路ニ笠縫島トテアリ。四極山（割書）（今ハ高崎山）トイフモアレド、コレハイカ也。コノ別府スナハチ万葉ニはやミ浜風トヨメル所也。

廿八日。

（頭欄）（○）朝トク中津ヤノ湯ニマカル。清潔愛スベシ。コ、ヨリ日出ニ海上三里也。帆足万里逢バヤトオモヒツレド、眼病ニテ客ヲ

辞シタルヨシナレバ尋ネズ。杵築ヘハ七里也。元田百平トテ儒家アリ。コノ別府ニモ矢田淳トテ詩人アリ。津田秋岡ト云画家、僧信トテ歌ヨミアリ。橋本玄助トテ風流家アリ。タ、橋本ノミヲ訪ヘリ。コノ男、歌ヲ少々ヨメリトミエテ、書画帖ヲ書ケガシツ。町ハツレニ石橋アリ。碩田コ、マデ送ニ来タリ。

わかるとも年月へずて君をまたはやミ浜風ふきなたゆミセ

コノ別府、相応ノ場所ナリ。然ルニ朝モ豆腐ノソバキリニテ飯ヲ出セリ。肴ハコ、ノ浦ニテハアマリトレヌヨシ也。サルハ海上モ湯ノ氣アルユエ、近辺ニ魚来ラズト也。マコトヤ、飯料五十文、フトン一枚二十文ニテトメル也。コレ湯客ノ木賃ニテ、ハタゴハナシト也。大化ノ狛犬ノアル社コノワタリト聞テ後藤ニタヅネケルニ、岡城ノ南東ニ大行司八幡トテアリ、コ、ニアリトイフ。ミンヨシナクテウチ過ス。

コ、ヨリ山野ノ小道ヲ爪サキアガリニ三十丁バカリ来テ坂アリ。湯ヤキ坂トイフ。コ、ノ田ノ畔、アルヒハ山ノハナヨリ煙ヲ吐出ス。下ミナ湯トミエタリ。田ノ中ニ湯ノ流れオツル所アリ。イトアツシ。岡ノ上ヨリ見ルニ、田ノ側ニ池アリ。色白水ノ如シ。湯玉ヲドリテニエカヘリタリ。コレラノ類ソココ、ニアリテ、里人ハミナコレヲ地獄トイフ。コノ坂ヲ上リテ小村アリ。立石トイフ。ナホ御料ナリ。庄ヤ古屋七郎ガ許ニテ昼餉タベ、人足ヲ、マコトハ椎原マデ一里半ノ所ナレドタノミテ、ヌル湯マデ三里ノ処ヲスグニモタス。コ、ニ鶴見権現ノ鳥居アリ。

ソレヨリ草山ノ小道ヲ一里アマリ来テ、人足アマリヨハキニヨリ、カヘル馬ヲヤトヒテ荷物ヲツケシム。ヤ、来テイミジキ高山ノフモトニナリヌ。トヘバ湯ノ岳ナリトイフ。コノワタリヨリタニナリヌ。

海ごしにあほととのミミシ湯のたけのふもとの道をくれてゆくかないミじくかしこき所も過て、ぬる湯の竹もととイフ所ニツク。佐甲ハヤク来テ居タリ。佐甲ガヨメル、

ふみさくむ岩根もあつき夏の日ハわきて出るもぬる湯也けりコ、ハ延岡領也。宿ノ翁心アル者、コノワタリノコトヲキク。年貢中

ガ五ツ七八分也トゾ。御料モシカナリトゾ。マタ延岡ノコトヲキク。コノ比銀ノ出る山ヲ見出シテ公義ヨリ一万兩拝借、コノ比御勘定役一人下リテ見合アリ。イカホド出ントモソノ数シラレガタキホドノ事也。右公義衆ニ二十五人扶持ト五十兩ヅ、ノ助力ヲナサルトゾ。

コノ湯ノ岳ハ、三月三日二日、山ノ口アキテ男女共ニ登山ス。

廿九日。晴。

払曉立テ並柳ニ至ル。半道也。並柳ヨリ森マデ六里ナリ。コノ道山野ノミニテ、イハユル傾丘ヲ上リ下リユク。二里ホド行テ四五軒バカリ家アル邑アリ。ソノ他ハ並柳ヨリ三里ノ所ニ小茶店ヒトツアルノミニテ、ソノ他田モ畠モ松杉モナク、一面ノ草山ナリ。ソノ中ニハルカ離テ草山ヲ開キ人參畠トシタル所ヨリ小路ノ右ニ、松平主殿頭御預所、左ニ久留島鞆負領トイフ杭二所アリ。

森ニツキテ伊藤又兵衛重枝ヲトハシム。老病ニテ来ルコトハ叶ハズ、行クコトハ願ノ上ナラデハナラヌヨシニ付、アハズシテ過グ。森ノ御馬ヤ、カヤブキニテイトアラマシ也。町もカヤ、バカリニテイトワロシ。豊後中ノ山オク也。

森ヨリ四日市ニツグ<sup>マヅ</sup>。一里也。コノニテ萩ノ粟惣兵衛ガ五男ニアフ。二里余来テ平川ノ高七屋ニヤドル。ヨキハタゴヤ也。

〈未完〉